2022年5月



**\*\*\*本プレスリリースは、即時解禁となります\*\*\***

Press Release

**イマーシブ・モニタリングを次のレベルへ引き上げる**

**GLM 4.2と9301Bを発表**

*GRADE™ ルーム・アコースティック・リポートと さらに進化したマルチチャンネル機能が*

*ステレオからイマーシブまで、拡張性とマネージメントを向上*

**フィンランド・イーサルミ2022年5月…..** プロフェッショナル・モニタリング・ソリューションにおけるリーディング・カンパニーであるGenelecは、ラウドスピーカー・マネージャー・ソフトウェアのGLM（Genelec Loudspeaker Manager ）4.2と、マルチチャンネルAES/EBUインターフェースの9301Bを発表いたします。この2機種によって[SAM（Smart Active Monitoring）](https://www.genelec.jp/key-technologies/smart-active-monitor-sam-systems/)システムの設定および管理の操作性がさらに向上。 1台の9301Bおよび複数のバスマネージド・サブウーファーを使用する場合は最大16チャンネルまで、2台目の9301Bを使用する場合は32チャンネルまでの拡張性のあるイマーシブ・モニタリング・システムを、効率良くかつシームレスに構築することができます。

[Genelec](https://www.genelec.jp/)のSAMシステムは、その優れたイメージングと色付けのないパフォーマンス、そしてGLMソフトウェアとの密接な連携により、レベル、ディレイ、周波数応答を正確にキャリブレーションできることから、長きにわたり業界標準としてご評価いただいております。こうしたキャリブレーションによってモニタリング・システムを使用する部屋に合わせて最適化することで、異なる環境で再生される際もバランスが崩れることのない、信頼性の高いミックスを生み出すことを可能とします。

高速かつ正確なAutoCal 2（自動ルーム・キャリブレーション・アルゴリズム ）を搭載するGLM 4.2のアップデートには、GRADE ルーム・アコースティック・リポート機能、主要なパラメーターのリモート・コントロール、モニターとサブウーファーの対称キャリブレーションの改善など多くの新機能が含まれています。

AutoCalのキャリブレーション・プロセスで収集された情報を使用するGRADE（ルーム・アコースティック・リポート）により、GLMは部屋の完全な分析とモニタリング・システムを提供する世界初のキャリブレーション・ソフトウェアとなります（ITU-R BS.1116推奨事項を含む）。このレポートは、ユーザーやスタジオ設計者が部屋の音響処理を微調整したり、モニターとリスナーの位置の調整、ベース・マネージメントの最適化などを行う際に、音響的な問題に対する具体的なアドバイスや見解をご提供いたします。そして、このレポートサービスはご紹介を兼ねて2022年末までの間、無償にてお使いいただける予定です。

また、GRADE（ルーム・アコースティック・リポート）では、リスニング・ポジションでの周波数応答の精度や初期と後期の音の違い、到達時間の精度、初期反射、室内音響分析など、様々な変数を分析します。これらは全て、サウンドカラーやステレオ・イメージの精度、音がリスナーを包み込む度合い、サブウーファーとベース・マネージメントの性能などが、不正確な原因を特定するために組み合わせて使用されます。

GLM 4.2はMIDIリモートにも対応し、DAWやコントロール・サーフェースでのモニター・コントロールがより速く、スムーズに行えるようになりました。再生音量レベルやミュート、音量プリセット、ベース・マネージメント、モニター・グループの起動など、主な機能を外部コントローラーから直感的にコントロールできます。

イマーシブ・オーディオを採用する多くのユーザーのために、GLM 4.2は巨大なモニター・システムも同様にキャリブレーションすることができます。そのリスニングの距離は50cmまで縮めることが可能です。また、キャリブレーション・グループIDとサブウーファー・グループID機能は、選択したモニターを対称的なグループとしてキャリブレーションする際の方法を改善し、複数のサブウーファーを連携させた柔軟性の高いシステムの構築が可能となりました。

サブウーファーの設定もまた、新しい9301Bインターフェースを介してイマーシブ・ユーザー向けに改善されています。9301Bは、7300シリーズの[スマート・アクティブ・サブウーファー](https://www.genelec.jp/studio-monitors/sam-studio-subwoofers/)と連動し、7300シリーズのシングルAES/EBU入力と互換性のあるフォーマットで最大16チャンネルのフォーマットを1台のサブウーファーでサポートします。したがって、1台の9301Bを用いることで、9.1.6などの一般的な16チャンネルのフォーマットを1台のサブウーファーでサポートすることが可能です。また、9301Bを追加することで、22.2などのより多くのチャンネルを必要とするフォーマットへの互換性を持たせることも可能としております。

Genelecのマネージング・ディレクターであるシアマック・ナギアンは、次のように述べています。

「私達は15年以上にわたって、SAMシリーズの性能と操作性を改良し、ユーザーの皆様の要件が変わるたびに共に成長できる、真に拡張性と将来性のあるモニタリング・システムを提供してきました。これらの新しいソフトウェア／製品は、GRADE（ルーム・アコースティック・リポート）を通してお客様がご自身の部屋を最大限に活用できるように支援するだけではなく、イマーシブ・モニタリングの世界の移行を高い費用対効果でスムーズに行うことを可能にします。これまで以上に、Genelecは世界中のオーディオ・プロフェッショナルにとって、確実かつ長期的な投資であり続けています」

詳しくは、[www.genelec.com](http://www.genelec.com)（英文）をご参照ください。

また、GLM 4.2のさらなる詳細は、近日中に[www.genelec.jp/glm/](http://www.genelec.jp/glm/)にて日本語で公開予定です。

*\*\*\*以上\*\*\**

**Genelecについて**

1978年の創立以来、Genelecはプロフェッショナル・オーディオ・モニタリングをビジネスの主軸としてきました。研究開発への飽くなき取り組みが革新的な技術を生み出し、Genelecはアクティブ・モニター業界を牽引する存在となりました。創立から40年経過した今でも、Genelecのモニター製品は当初の哲学を忠実に守り、サイズに関わらず信頼性の高いニュートラルなサウンド再生と、リスニング環境の音響条件へ適応する機能を提供します。Genelecユーザーは、音響的なアドバイスやキャリブレーション・サービス、テクニカル・サービス、そして長期の製品寿命など、最高のサポートを受けることができます。Genelec製品を購入することは、オーディオ・モニタリングに対する堅実な投資となるでしょう。

**お問い合わせ先：**株式会社ジェネレックジャパン｜マーケティング

電話番号: +81(0)3 6441 0591 email: [press@genelec.jp](mailto:press@genelec.jp)